

所感(茅野市での展開の可能性)

避難所の運営については、大規模災害時は茅野市においても地区単位での指示・伝達システムを考えた防災マニュアルや、基本避難所、補完避難所、避難地単位の運営訓練も必要だと感じました。また、視察した志津川中学校における避難所運営のリーダーの存在の大きさを感しました。

学校再開の取り組みについては、学校が緊急時には避難所としての機能や安全を確保できるのか考えさせられ、子どもの教育(避難生活中や開校後の本格授業への持つべき方)やケアの対応を考えていた志津川中学校の先生方の行動に感銘を受けました。

防災教育については、茅野市に起こりうる災害にはどんなものが想定されるか、時間帯はいつを想定するのか、幅を広げて、子どもだけでなく全ての人が防災教育として考えることが必要だと感じました。

小中一貫教育と地域学園について

栃木県宇都宮市 7月4日(水)

視察目的

小中一貫教育に取り組む自治体が増える中、平成24年度から市内一斉に小中一貫教育に取り組んでいる宇都宮市を視察しました。

小中一貫教育制度の

期待できる成果(目標)

- ①小・中学校の学力観・指導観の共有↓思考力、判断力などの学力定着
②社会体験や自然体験等の系統的学習

地球温暖化対策実行計画について

香川県高松市 7月10日(火)

視察目的

「持続可能な低炭素都市・高松」実現を目指しての理念や目標の実現に向けた取り組みと、茅野市での展開の可能性の検討。

施策の方向性

①日照時間が長い高松市の特性を生かし、太陽エネルギーの利用を促進するほか、それ以外の再生可能エネルギー(下水汚泥消化ガス・廃棄物焼却に伴う余熱・バイオマス)の利

習の展開↓社会性、規範意識、道徳性の向上
③異学年、地域の人との交流↓コミュニケーション力の向上
④小中学校の連携により↓不適応(いじめ、不登校等)の減少
⑤9年間を通じた教員による見取り↓生徒の「良さ」の発見

所感(茅野市での展開の可能性)

小中一貫教育の場合、中一ギャップも考えたとき、小学校と中学校をどこで分割するか、その地域の実態を把握しておく必要があると考えます。

茅野市は「こども部」として、子どもに関するトータル行政がスタートしましたが、義務教育に関する9年間をどのようにしていくのか、更には、地域との関係や人づくり施策が急務です。宇都宮市の場合、部分的な対策でなく、総合的な仕組みとして、市費の投入(人・金)が明確であり、大胆だと感じました。

Table with 2 columns: 社会員 (委員、副委員、委員、委員、委員、健康福祉部長、議会事務局) and 環境 (晃子、藤玲、伊北、小樋、伊藤、吉田、澤)

介護予防サービスの取り組みについて

兵庫県加古郡稲美町 7月9日(月)

視察目的

超高齢社会を目前にした茅野市において、介護予防の取り組みは急務の課題であり、行政・地域が協働で取り組んでいる稲美町の先駆的な取り組みが、茅野市の更なる介護予防の推進につながる可能性を探りました。

事業概要

稲美町の介護保険予防は、介護保険の始まった頃から国が推進した『筋力・口腔・栄養・改善・転倒予防』の取り組みから、『健全なる加齢の促進因子』5点(アメリカの考え方に着目し、現在はこちらにシフトしてきています)。

5つの因子とは

- ①適切な生活習慣
②良好な臨床的症候
③良好な自己イメージ(主観的健康度・自己効力感・生活満足度)
④社会的活動が豊富
⑤知的活動への従事が多い

介護予防とは

- ①高齢者がなぜ活動を低下させたか。
②原因を分析し、取り組むこと。
③次に起こりうる事態を予測し、予防的な対処を行う。
④個人だけでなく、個人を取り囲む地域への働きかけも重要。これらを網羅した事業として、いきいき3事業を推進している。

いきいき3事業

①「いきいき広場」:遠くへの外出が困難な高齢者、普段家族以外と話す機会の少ない方が、自治会集会所な

ほぼ茅野市と類似しています。特異的なものとして、事業所用に対する補助制度があります。(最大100KW、200万円)



高松市役所にて

所感(茅野市での展開の可能性)

①茅野市減CO2(げんこ)計画を更に踏み込み、取り組みの具体例を市民に解りやすく、実効性のある計画として周知徹底させることにより、事業実施が可能になると考えます。

②通勤通学や交通弱者、また観光客にも対応できるオンデマンドなどの交通システムの早急な確立と、ハイブリッド自動車や電気自動車などの環境性能に優れた次世代自動車の普及について、官民の力を合わせた取り組みが重要であると考えます。

③クリーンエネルギー普及について、自然豊かな立地条件をフル活用し、再生可能エネルギー推進のためのパイロット事業として、民間と協力して早急に事業実施することは、それなりに意味のあることです。とりわけ農業や観光に結びつく取り組みが

どで地域の人とふれあうことより介護予防を図る。茶話会が中心で、昼食をはさんで楽しく過ごす。
②「いきいきサロン」:地域の高齢者のふれあい・仲間づくりを、自治会集会所などで老人会を中心にニュースポーツ行っている。

③「いきいきセミナー」:高齢者がいきいきと過ごせるよう、『生きがい作り・健康づくり・友達づくり』の機会を提供している。料理教室、男のごはん、太極拳、元気スポーツ、はじめのウクレレ、教えてパソコン、手作り皮雑貨、楽しい書道 など



稲美町担当者より説明を受ける

所感(茅野市での展開の可能性)

自治会集会所(公民館)を使用してのいきいきサロン・いきいき広場は、茅野市で取組まれている「いきいきサロン」そのものであり理念も同じです。しかし、サロンの理念が行政・関係者間で共通認識されているかという点、ボランティアの自己満足の活動と捉えられている感が拭えません。そのため、ボランティアの都合による開催や、介

重要です。

④茅野市全体としてのクリーンエネルギー普及促進に向けて、住宅用に加えて、事業所への太陽光発電の普及を推進するための補助制度についても研究検討が必要。
⑤クリーンエネルギー普及促進に対し市民に関心を持つてもらうためにも、公共施設への太陽光発電の推進を早急に進める。

⑥日常生活における省資源・省エネルギー行動の実力が目で確認でき、省エネ意識の高揚につながるため、市民への貸出し用の「ワットチェッカー」などの機器を市で購入整備することが求められます。

高松市では、計画の推進に対し、市民、事業者、行政が連携・協働して推進していることが大きな特徴でした。

介護予防推進の取り組みについて

高知県高知市 7月11日(水)

視察目的

高知市における先進的な介護予防推進事業「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」の取り組みについて視察をしました。

「いきいき百歳体操」

「かみかみ百歳体操」

アメリカの老化研究所の手引き書を参考に「いきいき百歳体操」を開発。0kgから2.2kgまでに負荷を増やすことのできる重りを、手首・足首に付けて運動を行うことにより筋力とバランス能力